

32の地の美、地の心、知の技

青森県伝統工芸品

Traditional Crafts from AOMORI Prefecture

Official Guide Book



青森県ホームページ「青森県の伝統工芸品及び伝統工芸士（一覧）」



青森県経済産業部 地域企業支援課

〒030-8570 青森市長島1丁目1番1号
TEL:017-722-1111（代表）

発行：2025年3月 青森県



青森県伝統工芸品とは

青森県には、歴史と風土に培われ、生活の中で受け継がれてきた工芸品が数多く存在しています。これらの工芸品の価値と魅力を高め、工芸品製造業者の製造意欲の向上及び工芸品産業の育成・振興を図ることを目的として、平成 8 年 2 月に青森県伝統工芸品指定制度を創設しました。

■ 指定要件

- 主に日常生活の用に供されるものであること。
- 製造工程の主要部分が手工業的であること。
- 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
- 原材料が伝統的に使用されてきたものであること。
- おおむね 50 年以上の歴史を有すること。

以上の要件をすべて備え、青森県伝統工芸指定審査会の意見を聴いて適当と認められるとき、知事が「青森県伝統工芸品」として指定します。

青森県伝統工芸士とは

県指定伝統工芸品の製造業者のうち、高度の技術・技法を保持する者を県伝統工芸士と認定することにより、社会的な評価を高めるとともに、従事意欲と技術の向上を図り、伝統的技術又は技法の指導者として工芸品の振興、後継者の育成と伝統工芸品の次世代への継承に寄与することを目的として、平成 13 年 11 月に青森県伝統工芸士認定制度を創設しました。

■ 認定要件

- 青森県内に居住していること。
- 伝統工芸品の製造の実務経験年数が 12 年以上あり、かつ現在もその製造に従事していること。
- 伝統工芸品の製造に関する高度の伝統的技術又は技法及び必要な知識を有し、その維持又は発展に努めていること。
- 後継者育成に熱意のある人。
- 青森県伝統工芸士にふさわしい高潔な人格を有すること。
- 経済産業大臣認定の伝統工芸士でない人。

以上の要件をすべて備え、青森県伝統工芸指定審査会の意見を聴いて適当と認められるとき、知事が「青森県伝統工芸士」として認定します。

国が指定する伝統的工芸品

昭和 49 年 5 月 25 日に公布された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき経済産業大臣が指定するもので、次の 5 つの要件が必要です。

■ 指定要件

- 主として日常生活に使われるものであること。
- 主な製造過程が手工業的であること。
- 伝統的な技術・技法により作られるものであること。
- 伝統的に使用されてきた材料を使っていること。
- 一定地域に生産者が集まっていること。

以上の要件をすべて備え、産業構造審議会がそれを認めたとき、経済産業大臣から「伝統的工芸品」に指定されることになります。

■ 青森県伝統工芸品マーク



「人」と青森県の「A」を暗示しながら毛筆で「伝統性」を、底辺の長方形で「現代性」を表現しています。「地の美（Red）」は、青森県伝統工芸品の「美しさ」と伝統工芸士の「情熱」をイメージ、「地の心（Green）」は、青森県の伝統工芸品に込められた「温もり」「和む」などのココロをイメージ、「知の技（Blue）」は、青森県の伝統工芸品と伝統工芸士の知性ある「技」と創造性をイメージしています。

青森県伝統工芸士一覧

1 津軽塗

- ・片山 勉 / 弘前津軽塗商工業協同組合
- ・秋田 良一 / 弘前津軽塗商工業協同組合

2 津軽焼

- ・高野 博 / 高野陶房
- ・野呂 薫 / ひろの窯
- ・坂本 羊子 / 津軽藩ねぶた村

3 八戸焼

- ・渡邊 真樹 / 渡辺陶房

4 津軽びいどろ

- ・芳賀 清二 / 北洋硝子株式会社
- ・篠原 義和 / 北洋硝子株式会社
- ・神 正人 / 北洋硝子株式会社
- ・館山 美沙 / 北洋硝子株式会社

5 あけび蔓細工

- ・三上 徳仁 / 有限会社宮本工芸

9 南部花形組子

- ・館 功 / 館タテグ工芸

10 津軽竹籠

- ・三上 司

11 津軽傳統組子

- ・齊藤 正美 / 津軽傳統組子館（建具工芸・齊藤）

12 こぎん刺し

- ・須藤 郁子 / 有限会社弘前こぎん研究所
- ・千葉 弘美 / 有限会社弘前こぎん研究所
- ・荒木 悦子 / 前田セツこぎん研究会
- ・工藤 夕子 / 三つ豆

13 南部菱刺し

- ・工藤 まさ / 南部菱刺し西野刺っ娘の会
- ・天羽 やよい
- ・中村 禮子 / 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
- ・中村 晃子 / 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
- ・横井 充子 / 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
- ・高橋 博子
- ・山田 友子 / 南部菱刺研究会・つづれや
- ・北向 春枝

14 津軽裂織

- ・村上 あさ子 / テキスタイルスタジオ村上
- ・村上 始 / テキスタイルスタジオ村上
- ・倉内 尚子 / 裂き織り工房ポンテ

15 南部裂織

- ・井上 澄子 / 八戸南部裂織工房『澄』
- ・澤頭 ユミ子 / 南部裂織保存会
- ・松本 律子 / 下北南部裂織
- ・三橋 照勝 / 南部裂織七戸町保存会
- ・川原 和子 / ており工房みちのく
- ・三好 千佳 / さきおり CHICKA
- ・長畑 恵智子 / 南部裂織保存会
- ・氏家 幸子 / 八戸さき織の会
- ・川岸 延子 / 仏ヶ浦裂き織り

16 津軽組ひも

- ・川口 良子 / 津軽組ひも工房
- ・佐藤 留美子 / 津軽組ひも工房

17 津軽打刃物

- ・三國 弘 / 三國刃物製作所
- ・三國 博英 / 三國刃物製作所
- ・田澤 幸三 / 田澤刃物製作所
- ・吉澤 俊寿 / 有限会社二唐刃物鍛造所
- ・三國 徹 / 三國打刃物店

19 錦石

- ・小田桐 吉津 / 小田桐錦石研究所合同会社
- ・須藤 伸之 / 須藤錦石加工所
- ・小田桐 道広 / 石小屋

20 きみがらスリッパ

- ・三畑 ヒロ子 / 十和田きみがらスリッパ生産組合
- ・古舘 よしえ / 十和田きみがらスリッパ生産組合

21 八幡馬

- ・高橋 利典 / 株式会社八幡馬

22 下川原焼土人形

- ・阿保 正志
- ・高谷 智二 / 高谷下川焼土人形製陶所

23 温湯こけし・ずぐり独楽

- ・盛 美津雄 / 津軽こけし工人会
- ・阿保 六知秀 / 津軽こけし工人会
- ・笹森 淳一 / 津軽こけし工人会
- ・阿保 正文 / 津軽こけし工人会

24 弘前こけし・木地玩具

- ・長谷川 健三 / 津軽藩ねぶた村

27 ねぶたハネト人形

- ・今井 陽子

29 津軽凧

- ・成田 幻節 / ねぶた・凧のなりた
- ・溝江 由樹 / 津軽藩ねぶた村
- ・高橋 勝良 / 高橋紋章染工場

31 五戸ばおり

- ・稲村 幸男

32 金魚ねぶた

- ・檜山 和大 / 津軽藩ねぶた村
- ・高橋 勝良 / 高橋紋章染工場
- ・成田 幻節 / ねぶた・凧のなりた

伝統工芸士・伝統工芸品の紹介

令和6年度に新たに認定・指定された
伝統工芸士・伝統工芸品を紹介します。

したかわらやき

〔下川原焼土人形〕“Shitakawara” Pottery’s Earthenware Dolls

高谷 智二さん TAKAYA Tomoji

令和6年度認定

高谷さんは平成23年に製作を開始し、平成28年からは高谷下川原焼土人形製陶所7代目として人形を製作しています。江戸時代から現在に至るまでに作成された約1000種類ある型を使用し、ポスターカラーやアクリル絵の具で絵付けを行っています。数多くある型から復刻した人形製作に加え、新たな原型作りを行うなど伝統にとらわれない新しい作品の製作にも取り組んでいます。

児童館や保育施設における鳩笛の絵付け体験にも協力しており、下川原焼土人形の普及及び文化継承に貢献しています。



〔南部裂織〕Nambu Sakiori

氏家 幸子さん UJIIE Yukiko

令和6年度認定

氏家さんは、製作体験を行った際に南部裂織の美しさに感銘を受け、平成10年から技術の習得を開始しました。平成11年に「八戸さき織の会」に入会し、平織やあじろ織など多様な織り方を取り入れた作品を製作・販売しています。

現在、同会が開催している南部裂織教室において講師を担当し、生徒が段階的に技術を習得できるよう、糸のかけ方など基本的な動作からはじめ、4段階のステップを設けて丁寧に指導するなど、会の副会長として技術の伝承と後継者育成に貢献しています。



〔南部裂織〕Nambu Sakiori

川岸 延子さん KAWAGISHI Nobuko

令和6年度認定

川岸さんは、地域活性化を目的として、佐井村にあった地機を活用して平成2年に南部裂織の技術習得を開始し、その後、志を同じくするメンバーと「仏ヶ浦裂き織り」を立ち上げました。平織のコースターや帽子、バッグなど様々な作品を製作し、津軽海峡文化館「アルサス」内で展示・販売しています。

佐井村で開催される祭りにおいて南部裂織の体験指導を行っているほか、東京で開催されるイベントなどで南部裂織の実演・体験指導を行っており、村内外における南部裂織の普及に貢献しています。



てぶ がね てびらがね

〔手振り鉦（手平鉦）〕Teburigane

製造者：有限会社小野商会 Onoshokai

令和6年度指定

青森県内のねぶた祭り、ねぶた祭りなどの囃子に用いられている手振り鉦（手平鉦）。令和6年度に新たに手振り鉦（手平鉦）を青森県伝統工芸品に指定しました。（※手振り鉦の概要説明は、P15を参照）

主な工程



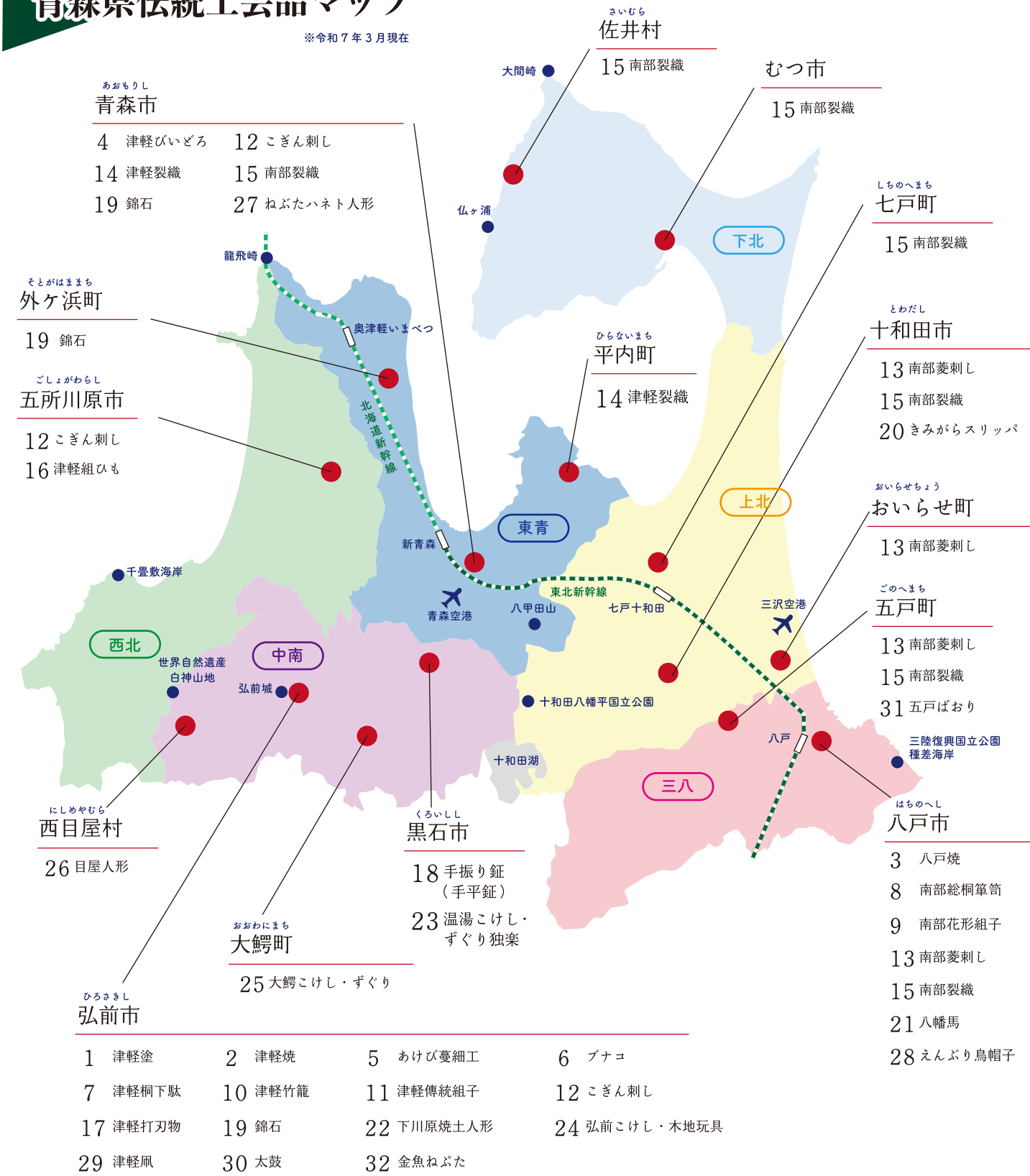
打ち出し

ならし叩き

持ち手・房取り付け

青森県伝統工芸品マップ

※令和7年3月現在



- 1 漆器・陶器・ガラス

つがるぬり
津軽塗
- 2 漆器・陶器・ガラス

つがるやき
津軽焼
- 3 漆器・陶器・ガラス

はちのへやき
八戸焼
- 4 漆器・陶器・ガラス

つがるびいどろ
津軽びいどろ

- 5 木・竹工品

あけびつるざいく
あけび蔓細工
- 6 木・竹工品

ぶなこ
ブナコ
- 7 木・竹工品

つがるきりた
津軽桐下駄
- 8 木・竹工品

なんぶそうきりたんず
南部総桐筆筥
- 9 木・竹工品

なんぶはながたくみこ
南部花形組子
- 10 木・竹工品

つがるたけかご
津軽竹籠
- 11 木・竹工品

つがるでんとうくみこ
津軽伝統組子
- 12 木・竹工品

こぎんざし
こぎん刺し
- 13 木・竹工品

なんぶひしざし
南部菱刺し
- 14 木・竹工品

つがるさきおり
津軽裂織
- 15 木・竹工品

なんぶさきおり
南部裂織
- 16 木・竹工品

つがるくみひも
津軽組ひも
- 17 金工品

つがるうちもの
津軽打刃物
- 18 金工品

てぶりがね
手振り鉦（手平鉦）
- 19 金工品

にしきいし
錦石
- 20 金工品

きみがらすりっぱ
きみがらスリッパ
- 21 金工品

やわたうま
八幡馬
- 22 金工品

したかわらやきつちにんぎょう
下川原焼土人形
- 23 金工品

ぬるゆこけし・ずぐりこま
温湯こけし・ずぐり独楽
- 24 金工品

ひろさきこけし・きじがんぐ
弘前こけし・木地玩具
- 25 金工品

おおわにこけし・ずぐり
大鰐こけし・ずぐり
- 26 金工品

めやにんぎょう
目屋人形
- 27 金工品

ねぶたはねとにんぎょう
ねぶたハネト人形
- 28 金工品

えんぶりえぼし
えんぶり鳥帽子
- 29 金工品

つがるだこ
津軽飴
- 30 金工品

たいこ
太鼓
- 31 金工品

ごのへばおり
五戸ばおり
- 32 金工品

きんぎょねぶた
金魚ねぶた

1 津軽塗

Tsugaru Lacquer Ware

漆器・陶器・ガラス



「津軽の馬鹿塗り」の異名をもつほど手間と時間をかけて丁寧につくられる逸品「津軽塗」



津軽塗はおよそ 300 年前の津軽藩四代藩主信政の時代に津軽藩召し抱えの塗師池田源兵衛によって始められたと伝えられている。江戸時代には津軽藩の保護・育成の下、主に藩の調度品として用いられた。明治初期に産業として確立後は人々に親しまれる愛玩品として幅広く使われている。

津軽塗の代表格である唐塗はヒバの素地から塗り・研ぎ・磨きを繰り返し、48 もの長い工程を経て完成される堅牢優美な塗物である。唐塗だけではなく七々子塗・紋紗塗・錦塗の伝統的な 4 つの技法が現在まで受け継がれている。さらに現代風のアレンジを加えて多彩な紋様を生み出すことができる。昭和 50 年に国の伝統的工芸品として産業指定。平成 29 年に重要無形文化財として技術指定され、津軽塗技術保存会が保持団体認定を受けた。

■ 主な製品 椀・重箱・テーブル・茶器・花器・盆・箸・飾棚

■ 主な製造工程 木地固め→布着せ→地付け→仕掛け→彩色→荒研ぎ→炭はぎ→摺漆→艶付→上塗→完成

CONTACT

青森県漆器協同組合連合会 / 弘前市神田 2-4-9 ☎ 0172-35-3629 津軽塗技術保存会 / 弘前市賀田 1-1-1 ☎ 0172-82-1642

弘前津軽塗商工業協同組合 / 弘前市西大工町 82-1 ☎ 0172-35-4004 株式会社たなか銘産 / 弘前市田町 4-2-2 ☎ 0172-36-0111

津軽藩ねぶた村 / 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511

2 津軽焼

Tsugaru Pottery

漆器・陶器・ガラス



津軽の風土を表すような素朴ながらも独特な味わいがある「津軽焼」



津軽焼の源流は津軽藩四代藩主信政によって集められた陶工たちが築いた平清水焼・大沢焼・下川原焼・悪戸焼である。藩政時代には主として津軽藩の調度品や日用雑器が焼かれていた。

しかし明治に入り鉄道の開通に伴って流入した他県の焼物に押された結果、大正時代には一時途絶えてしまう。現在の津軽焼は昭和に入ってから再興したものである。現在の津軽焼は地元の土の味を生かし、釉薬に黒天目釉やりんごの木灰を原料とするりんご釉を使うものが主流になっている。このようにして作られる津軽焼は風土の特徴が生かされた素朴な色合いが魅力的な焼物である。

■ 主な製品 茶器・花器・酒器・皿類

■ 主な製造工程 土練り→成形→加工→乾燥→素焼き→下絵付け→施釉→本焼き（焼成）→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村 / 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511 ひろの窯 / 弘前市広野 2-3-5 ☎ 0172-87-0211

高野陶房 / 弘前市清水森字沼田 16-3 ☎ 0172-87-5844 津軽千代造窯 / 弘前市城南 4-11-3 ☎ 0172-32-8465

3 八戸焼

Hachinohe Pottery

漆器・陶器・ガラス



青森の大自然を連想させる焼物「八戸焼」



■ 主な製品 花器・茶器・酒器・食器

■ 主な製造工程 成形→乾燥→素焼き→上ぐすり付け→本焼き→完成

CONTACT

渡辺陶房 / 八戸市上野字上野平 33-6 ☎ 0178-23-4020

4 津軽びいどろ

Tsugaru Glassware

漆器・陶器・ガラス



青森の移りゆく四季を色とりどりの表情で魅せる「津軽びいどろ」



津軽びいどろは漁業用浮玉の製法を応用して作られるようになったガラス工芸品である。

津軽半島の西側にある七里長浜の砂を一部材料に使用し、古来からある難易度が高い「宙吹き」の技法を用いて生み出されたのが始まりである。

1500 度の高温で材料を溶解し、成形温度 1200 度という灼熱の中で真っ赤に溶けたガラスは、吹き棹に巻き取られ職人に息を吹き込まれることによって、豊かなかたちと色合いを持った工芸品に姿を変える。現在では9種類の技法と多彩な色ガラスを使ったカラフルで実用的な商品が多く作られている。

■ 主な製品 花瓶・冷酒用徳利・盃・タンブラー

■ 主な製造工程 材料調合→溶解→成形→徐冷→仕上げ→完成

CONTACT

北洋硝子株式会社 / 青森市富田 4-29-13 ☎ 017-782-5183

5 あけび蔓細工

"Akebi" Vine Crafts

木・竹工品



丹念に編み込まれ、丈夫で使うほどになじむ「あけび蔓細工」



あけび蔓細工は江戸時代の末に岩木山麓の嶽（だけ）温泉で、湯治客への土産品として、付近の山々に自生するあけび蔓を原料とし、炭籠・手提げ籠などが広く作られるようになった。明治以降には内外の展覧会をはじめ、広く海外へも市場が広がった。
全工程を手作業で行い、時間と手間暇をかけて丹念に仕上げられているため、あけび蔓細工のもつ色合い、野趣豊かな手触り、基本的な並編みや中が透けてみえるこだし編みなどの多彩な編み模様は、落ち着きと自然の温かさを感じさせる。また、耐久性に優れ、使うほどに滑らかさと艶で出てくるため末永く楽しめる一品である。

■ 主な製品 手提げ籠・盆・ざる

■ 主な製造工程 蔓の選定→陰干し乾燥→水に浸す→節取り→底編み→胴編み→縁編み→手付け→端切り→仕上げ→完成

CONTACT

有限会社宮本工藝／弘前市南横町 7 ☎ 0172-32-0796

6 ブナコ

BUNACO

木・竹工品



独自のユニークな製法で変幻自在に姿を変えることができる「ブナコ」



ブナコは、昭和 30 年代に青森県工業試験場で試作、研究の結果考案された木工品である。日本一の蓄積量を誇る青森県のブナを有効に活用するため、水を多く吸い込むブナの特徴を最大限に生かし、薄いテープ状にして螺旋状に巻き立体の物を形作ること、材料となる木材を無駄なく使うことができる。従来の木工品にはないような形状も表現することができ、ひとつひとつが丁寧に手作りされている。
現在では食器用品だけではなく、ランプやスピーカーなど、デザイン性の高いインテリア用品にもその技術は応用されている。

■ 主な製品 食器・ランプ・スピーカー・ティッシュボックス・ダストボックス

■ 主な製造工程 材料ひき割り→底板加工→巻き→型上げ→接着→木地調整→下塗り塗装→仕上げ塗装→完成

CONTACT

ブナコ株式会社／弘前市豊原 1-5-4 ☎ 0172-34-8715

7 津軽桐下駄

Tsugaru paulownia "Geta"
(Wooden Clogs)

木・竹工品



厳しい風雪の中で育まれ、木質が堅く木目も美しい「津軽桐下駄」



日本人の履物として古代より用いられてきた下駄は江戸時代に広く流行したが、生活の洋風化が進むことで今日では職人の数も少なくなっている。
下駄の材料には桐が最も適している。理由は軽く柔らかいうえに、反動が少なく温度変化にも強いからである。特に厳しい風雪の中で育まれた津軽の桐は木質も堅く、木目も美しい。
白木の下駄のほか津軽塗下駄などが古くから作られ、しっとりとした雰囲気醸し出している。

■ 主な製品 白木下駄・津軽塗下駄

■ 主な製造工程 桐の切断→自然乾燥→輪切り→木取り→あいだひき→あらつき→おがみつき→わきかん→すみつけ→はなまわし→はなあけ→つらがけ→とくさがけ→完成

CONTACT

阿保下駄製作所／弘前市城東北 3-8-20 ☎ 0172-26-1588

8 南部総桐箆筥

Nambu Paulownia Chest

木・竹工品



職人技が映える美しい桐の柾目が醸し出す気品あふれる「南部総桐箆筥」



古く城下町として発達した三戸町は南部桐生産の中心地である。大正時代初期から桐材は下駄にも利用され昭和 30 年代まで全国に出荷されていた。
三戸町内及び周辺の町には家具店があり明治時代中ごろから八戸周辺で桐箆筥の製作が始まったとみられている。
総桐箆筥は金具のほかは釘に至るまですべて木材を使用して作り上げられる。桐の生命ともいうべき柾目は、丹念な手作業が醸し出す美しさと気品を感じさせる。

■ 主な製品 総桐箆筥・小箆筥・机・収納箱

■ 主な製造工程 木釘作り→造材→乾燥→木取り→狂い直し→板接ぎ→組立加工→仕上げ・着色→完成

CONTACT

在家 福治／八戸市河原木字前谷地 118-3 ☎ 0178-27-5965

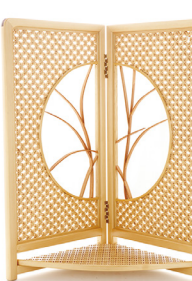
9 南部花形組子

Nambu Floral "Kumiko"
Woodworking

木・竹工品



高度に熟練した技術が芸術的な曲線美を生む「南部花形組子」



南部花形組子は、飛鳥時代から建築物の装飾として受け継がれている組子の一種である。
花形カンナという専用のカンナを用いて曲線的な加工を施し、釘を一切使わずに美しい幾何学模様を描く木工品である。原材料には主に県産材の青森ヒバを使用し、木材の種類や木肌の色の違いを利用して模様を描くことが南部花形組子の特長である。
曲線的で美しい南部花形組子は和風の建具のみならず、洋風ドアや電気スタンドなど「和」だけではなく「洋」にも取り入れられている。

■ 主な製品 ティッシュボックス・電気スタンド・行灯・衝立など

■ 主な製造工程 小割→引割→寸法の割り出し→削り→仕上げ→組立て→完成

CONTACT

館タテグ工芸／八戸市小中野 5-10-31 ☎ 0178-24-5438

10 津軽竹籠

Tsugaru Bamboo Baskets

りんご畑から生まれた丈夫で軽く実用性の高い「津軽竹籠」

木・竹工品



竹籠を作る技術は約 200 年前に遡るが、今日のように多量に生産されるようになったのは、津軽地方がりんごの産地として定着し、作業用の手籠が作られるようになってからである。

岩木山麓や八甲田山麓で採取される丈夫で耐久性に優れた根曲竹を用いて作られる津軽竹細工は、他産地の竹製品とは異なり、六角目などの大まかな編み目で、しなやかさ、軽さと丈夫さが特徴である。

現在では丸碗かごや果物皿など大きさや用途に応じて様々な商品が作られている。

- 主な製品 りんご手籠・野菜籠・椀籠・果物籠
- 主な製造工程 竹採取→四つ割→編み→完成

CONTACT

三上 司／弘前市八幡字古喜田 51-4 ☎ 0172-82-3054

11 津軽傳統組子

Tsugaru traditional "Kumiko" Woodworking

直線的なパーツの繊細な組合せによる幻想的な立体美「津軽傳統組子」

木・竹工品



津軽傳統組子は、飛鳥時代から約 1300 年以上続く建築物の装飾として受け継がれている組子の一種である。細く挽いた木に溝や穴、ホゾを彫り、直線的ないくつものパーツを組み合わせることで、立体的で複雑な幾何学模様を描くことが、津軽傳統組子の特長である。

その技法は籠のような模様を表現する「目潰し本籠目」、木材を縦横互いに組み付ける「本捻組」、三角形を複合し六角形の亀甲模様を織りなす「亀甲組子」など多岐にわたり、屋内装飾、行燈、衝立、屏風、球体のランプシェード、バッグなど幅広い製品を作り出すことができる。

- 主な製品 行灯、衝立、屏風、欄間、化粧組子
- 主な製造工程 切断→見込み一寸法の割出→見付仕上げ→切り出し→組立→表面仕上げ→完成

CONTACT

津軽傳統組子館（建具工芸・齊藤）／弘前市茂森新町 3-1-13 ☎ 080-5566-7223

12 こぎん刺し

"Kogin" Embroidery

厳しい北国の自然の中で生きてきた女性の知恵の産物「こぎん刺し」

染織品・繊維製品



江戸時代、津軽の農民は木綿の衣料を着ることが許されていなかった。そのため麻地の着物を何枚も重ね着して寒さをしのいでいた。そこで農村の女性たちは保温と補強のために、麻の布地に木綿で刺子を施した。こうして生み出されたこぎん刺しは、厳しい北国の自然の中で生きてきた女性の知恵の産物である。

こぎん刺しの特徴は、藍染の麻地に白い木綿糸で縦の織り目に対して奇数の目を数えて手刺しすることで、素朴で美しい幾何学模様が生み出されるところにある。また今日では用途によって木綿地やウール地なども用いられており、色彩も時代を経て多彩さを増している。

- 主な製品 巾着・帯・バッグ・ネクタイ
- 主な製造工程 糸より→麻地染め→生地織り→生地を整える→裁断→刺し→仕上げ→加工→完成

CONTACT

前田セツこぎん研究会 ／青森市安方 1-1-40-2F ☎ 017-735-5311 岩木かちゃらず会／弘前市島井野字長田 60-6 ☎ 0172-82-5109

有限会社弘前こぎん研究所／弘前市在府町 61 ☎ 0172-32-0595 三つ豆 ／五所川原市中央 3-118 ☎ 090-2846-0076

13 南部菱刺し

Nambu Hishizashi

ウメノハナ・クルミなどの多彩な幾何学紋様が美しい「南部菱刺し」

染織品・繊維製品



江戸時代、八戸を中心とする南部地方で南部菱刺しが生み出された。当時の農民たちは麻の着物しか着ることを許されておらず、木綿は糸として使用するものと決められていた。そこで農村の女性たちは補強と保温のために麻に木綿糸を刺して、厳しい北国の生活をしのいできた。この技術が現在まで受け継がれている。

菱刺しの特徴は麻布に綿糸で偶数目を拾って織り成されるウメノハナ・キジノアシなどの横に長い菱型の多彩な幾何学紋様である。

現在では麻地以外に木綿地やウール地も用いられ、ネクタイやタペストリーなど新たな製品にもその技術は応用されている。

- 主な製品 卓布・前垂れ・のれん・バッグ
- 主な製造工程 麻地の地直し→紋様のデザイン→刺し→仕上げ→完成

CONTACT

天羽 やよい ／八戸市長者 4-2-26-11 ☎ 0178-46-4662 南部ひしざし保存会／十和田市東一番町 8-10 ☎ 0176-23-0024

南部菱刺し西野刺っ娘の会／八戸市長苗代字内舟渡 25-1 ☎ 0178-28-2886 高橋 博子 ／五戸町字古館 1-7 ☎ 090-9531-4203

南部菱刺し工房アトリエ縹 ／八戸市白銀町字人形沢 6 ☎ 080-2802-0715 北向 春枝 ／おいらせ町中下田 147-12 ☎ 0178-56-4107

HANADA 南部菱刺研究会・つづれや ／八戸市田面木字前平 25-11 ☎ 090-3532-4855

14 津軽裂織

Tsugaru Sakiori

染織品・繊維製品



独特の手ざわりと深みのある色合いが美しい「津軽裂織」



津軽では裂織を「サクリ」と呼ぶ。江戸中期以降津軽の海岸線地域では日本海交易の北前船により古手木綿が普及し、布を裂いて織るサクリが漁師・農民の仕事着や日常着として作られた。サクリはその用途から薄く柔らかく仕上がるように工夫された技法で織られ、真新しいサクリは晴れ着として男たちや女たちを飾り、雪国の寒さから人々を守った。裂かれた布のささくれた風合いが独特の手ざわりを生み、古着の色の組み合わせによる時を経た深みのある色合いが魅力となっている。現在では、絹布をブナやナラ、りんごなどで染めて横糸にした綴れ織り・綾織りなどの技法を使ったバッグのほかコートなど様々な商品がある。

- 主な製品 卓布・バッグ・コート
- 主な製造工程 デザイン及び設計→機ごしらえ→裂布を作る→製織→仕上げ→完成

CONTACT

テキスタイルスタジオ村上／ 青森市高田朝日山 809-256 ☎ 017-739-7761 青森手織サクリ会／ 青森市赤坂 2-38-9 ☎ 090-3641-9813

裂き織り工房ポンテ／ 平内町小豆沢字茂浦沢 101-2 ☎ 017-755-2765

15 南部裂織

Nambu Sakiori

染織品・繊維製品



古布を再生し新しい命を吹き込む「南部裂織」



南部裂織は江戸時代に着古した着物や布を再生する機織りの一技法として生み出された織物である。当時は、寒冷な気候のために綿の栽培は難しく、北前船で運ばれた木綿や古手木綿はとても貴重な存在であった。そのため、厳しい生活を強いられた農村地方の女性たちが布を大切にするための知恵から生まれたものである。細く裂いた布を横糸に、木綿糸を縦糸にして地機で織った裂織は丈夫で暖かく、そのカラフルな色移りと複雑な機上げが特徴である。主としてこたつ掛けや帯などに用いられてきたが、現在ではテーブルカバーをはじめ現代感覚の手織物にも応用されている。

- 主な製品 卓布・手提げ袋・こたつ掛け
- 主な製造工程 整経→箆（おさ）通し→男巻き（おまき）→綾越し→糸綜統作り→元寄せ→機上げ→製織→完成

CONTACT

さきおり CHICKA／ 青森市安方 1-1-40 青森県観光物産館 2 階 machicotoba 内 ☎ 090-4886-3801
八戸南部裂織工房『澄』／ 八戸市三日町 11-1-4F ☎ 090-9032-4044
ており工房みちのく／ 八戸市河原木字袖ノ沢 2-80 ☎ 0178-28-5818
南部裂織保存会／ 十和田市伝法寺字平窪 37-21 ☎ 0176-20-8700
下北南部裂織／ むつ市小川町 1-12-2 ☎ 0175-22-3789
むつ裂織サークル／ むつ市大平町 9-7
南部裂織七戸町保存会／ 七戸町字上屋田 47-8 ☎ 0176-62-6239
仏ヶ浦裂き織り／ 佐井村佐井字大佐井 112 津軽海峡文化館アルサス内 1 階 ☎ 0175-38-2939
八戸さき織の会／ 五戸町中崎 5-11 ☎ 0178-62-3355
五戸町裂織愛好会／ 五戸町下タノ沢沢 48-11 ☎ 080-1816-3000

16 津軽組ひも

Tsugaru "Kumihimo" (Braiding)

染織品・繊維製品



青森の風土を感じる優しい色合いと高度な組み技術が融合した「津軽組ひも」



- 主な製品 帯締め・ブローチ・ネックレス・慶弔結び
- 主な製造工程 糸割り→染色→糸繰り→経尺→玉つけ→組みあげ→仕上げ→完成

CONTACT

津軽組ひも工房／ 五所川原市金木町菅原 240-17 ☎ 090-2027-6106

17 津軽打刃物

Tsugaru Handcrafted Knives

金工品



優れた切れ味と耐久性をもつ実用的な「津軽打刃物」



- 主な製品 和包丁・剪定鋏・鉈・鎌
- 主な製造工程 火造り→荒仕上げ→焼き入れ→焼きもどし→刃付け→仕上げ→柄付け→完成

CONTACT

三國刃物製作所／ 弘前市金属町 4-15 ☎ 0172-88-0555 有限会社二唐刃物鍛造所／ 弘前市金属町 4-1 ☎ 0172-88-2881
田澤刃物製作所／ 弘前市茂森新町 2-3-11 ☎ 0172-32-1087 三國打刃物店／ 弘前市茂森町 170-3 ☎ 0172-33-2202

18 手振り鉦（手平鉦）

Teburigane

金工品



青森県内の祭りに欠かせない美しい音色の「手振り鉦」



昭和 20 ～ 30 年代頃から、岩木山への登拝行事であるお山参詣に使用され始めたと言われており、現在では、県内のねぶた祭り、ねぶた祭りなどで使用され、欠かせない存在となっている。
原料となる真鍮板を切断する工程以外は全て手作業であり、金鍮やならし床を用いて真鍮を打ち出すことで強度を高め、均一に圧力を加えることで良い響きに仕上がる。持ち手は激しい演奏に耐えられるよう、組み紐で編まれる。

- 主な製品 手振り鉦（ねぶた、ねぶた、お山参詣用）
- 主な製造工程 切断→打ち出し→ならし叩き→研磨→金具作成・取付→持ち手・房取付→完成

CONTACT

有限会社小野商会／黒石市山形町 75-3 ☎ 0172-52-3815

19 錦石

"Nishiki" Stone Products

諸工芸品



磨きぬかれた光沢が美しい津軽石「錦石」



「陸奥の錦石」として名高い青森の錦石は、碧玉、めのう、玉髓などの石英に各種金属イオンが混入したことにより、複雑で格調のある色彩が交錯したものである。錦石は津軽半島周辺などで採取される天然石で、磨くと光沢とともに美しい色彩や紋様が現れる。
錦石は古くからその美しさが人々に愛されつづけ、縄文時代には「勾玉」に加工されたり、室町時代には「舍利石」として尊ばれ、遠く唐・天竺まで輸出されたり、江戸時代には津軽玉と称されてかんざしなどの装飾品として珍重されてきた。
現在では鑑賞用の美石のほか、指輪、ネックレスなどの装飾具としても広く活用されている。

- 主な製品 美石・指輪・ネクタイピン
- 主な製造工程 石の選別→大割り→小割り→型取り→研磨→洗浄→完成

CONTACT

小田桐錦石研究所合同会社／青森市西滝 3-19-27 ☎ 017-781-2347

えびす錦石店／外ヶ浜町字蟹田鰐ヶ淵 20-1 ☎ 0174-22-2114

須藤錦石加工所／弘前市紺屋町 13-3 ☎ 0172-32-6103

20 きみがらスリッパ

"Kimigara"(Corn Husk) Slippers

諸工芸品



カラフルかつ機能性の高さが人気の「きみがらスリッパ」



青森県の方言で、どうもろこしは「きみ」と呼ばれる。きみがらスリッパは、自然乾燥させた「きみ」の「から」、つまりどうもろこしの皮から作っている。かつて馬産地だった十和田地方は、飼料用どうもろこし「デントコーン」の栽培がとても盛んで、大量に発生する「きみがら」の再利用のために、昭和 20 年代の初めごろから作られるようになった。
履き心地がよく、夏はサラリと涼しく冬はあたたかいのが特徴。また、軽くて丈夫なうえ、通気性もよい。そのため主にスリッパや草履として重宝されている。また原色の染色ができることから、彩り鮮やかな配色も可能である。

- 主な製品 スリッパ・状差し・インテリア用小物
- 主な製造工程 皮の選別→乾燥→縄編み→皮の染色→乾燥→皮裂き→編み込み→仕上げ→完成

CONTACT

十和田きみがらスリッパ生産組合／十和田市伝法寺平窪 37-2 ☎ 0176-28-3611

21 八幡馬

"Yawata" Horses

諸工芸品



日本三駒に数えられる櫛引八幡宮の御神馬「八幡馬」



日本三駒の一つとしても数えられ、青森県南部地方の代表的な郷土玩具・民芸品である。
古来、南部地方の一宮・櫛引八幡宮の境内馬場では「流鏝馬（やぶさめ）」が行われ、地方の優れた馬が奉納されていた。その姿を模して作った木彫り馬がそもその始まり。櫛引八幡宮の例大祭で参拝者のお土産として売られるようになり、人々はその地名より「八幡馬」と呼ぶようになる。
明治以降、社会や生活環境の変化に伴い、作り手や産地、形状や木彫り馬のもつ意味も変化しながら、郷土玩具としての形が定着する頃には、親子馬、嫁入道中の盛装馬の模様など、子供や家族の幸せを願う愛情溢れる民芸品となる。現在では結婚、新築、開業、出産、落成など各種お祝い事の記念品・贈答品として喜ばれている。

- 主な製品 八幡馬
- 主な製造工程 木取り→削り→下塗り→加飾・絵付→毛すげ→完成

CONTACT

株式会社八幡馬／八戸市沼館 2-5-2 ☎ 0178-22-5729

22 下川原焼土人形

"Shitakawara" Pottery's
Earthenware Dolls

諸工芸品



素朴で温かみがある鳩笛が優しい音色を奏でる「下川原焼土人形」



下川原焼土人形は江戸時代の後半に九州筑前で陶磁器作りを習得してきた初代高谷金蔵が、津軽藩に召し抱えられて下川原に窯を築いたのが始まりである。明治時代の土人形人気による隆盛、ブリキなど新しい玩具の普及に押された大正時代の衰退という浮き沈みを経て、現在まで受け継がれている。下川原焼土人形は赤土と砂を調合した粘土を石膏の型枠にはめて形を整え、約 800 度の高温で数時間窯焼きし、最後に色つけをして出来上がる。鳩笛や干支人形が有名であるが、実際人形の種類は数百も存在する。その素朴な形と穏やかな表情によって淡い郷愁がかきたてられる。

■ 主な製品 土人形・鳩笛・人形笛

■ 主な製造工程 粘土の調合→型ぬき→乾燥→素焼き→地塗り→彩色→完成

CONTACT

高谷下川原焼土人形製陶所／弘前市桔梗野 1-20-8 ☎ 0172-32-6888

阿保 正志 弘前市新里字上樋田 85-2 ☎ 0172-27-3766

23 温湯こけし・ずぐり独楽

"Nuruyu" Kokeshi Dolls
and "Zuguri" Tops

諸工芸品



曲線美豊かな津軽系こけしの祖「温湯こけし」、雪の上でも回る津軽地方の伝統独楽「ずぐり」



津軽系こけしの発祥地である黒石市温湯温泉。大正時代の初めに、津軽系こけしの創始者である盛秀太郎がこけしを作り始め、現在はこけし工人が集まって「津軽こけし工人会」を結成し、伝統と新しさを見据えたこけし作りが続けられている。胴に描かれるアイヌ模様、眉を吊り上げてにらみをきかせる顔、すそで膨らんだ胸と極端な腰のくびれなどが、温湯こけしならではの特徴である。また胴体には、津軽藩の家紋から取り入れたといわれる牡丹の花も使われている。ずぐり独楽は温湯こけしの製作が始まる前より製作が始まったとされ、津軽地方では冬のずぐり遊び文化が今も残っている。

■ 主な製品 こけし・ダルマ・ずぐり独楽

■ 主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽こけし工人会／黒石市袋字富山 72-1 ☎ 0172-54-8181

24 弘前こけし・木地玩具

"Hirosaki" Kokeshi Dolls
and Traditional Wooden Crafts

諸工芸品



可憐で愛らしい「弘前こけし」、なつかしさの中に工夫を重ねた「木地玩具」



東北地方の工芸品である伝統こけしは 11 系統に分類される。その中の一つ、津軽系こけしは、主に 1 本の木から作られる“作りつけ”という技法で作られ、髪型はオカッパ頭という特徴を持ち、黒石市、大鰐町、弘前市で作られるこけしの総称である。明治時代から津軽地方内の木地師及び津軽と他県の木地師との交流が盛んに行われる中で、弘前こけしは津軽系こけしの中でも大鰐系の流れをくむものとして現在まで受け継がれている。またこの地域ではこけし作りとともにこまやダルマなどの木地玩具も盛んに作られ、地域の人々に愛されている。

■ 主な製品 こけし・こま・ダルマ

■ 主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村／弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511

25 大鰐こけし・ずぐり

"Owani" Kokeshi Dolls
and "Zuguri"

諸工芸品



素朴な中にも華やぎのある「大鰐こけし」、色彩が美しい「ずぐり」



大鰐こけしは明治初期に温湯温泉津軽系こけしの発祥地である温湯温泉から大鰐温泉に移り住んで木地挽きを始めたこけし職人たちが、大正時代になってこけしを作りだしたのが始まりである。大鰐こけしの特徴は、張りぎみの肩からまっすぐに伸びる胴体と、そこに描かれるあやめ模様にある。あどけない笑みを浮かべるその表情は、見る者に素朴な温かみを感じさせる。ずぐりは色彩豊かな独楽であり、雪国の子供たちの玩具として親しまれている。

■ 主な製品 こけし・ずぐり

■ 主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

嶋津 誠一／黒石市袋富山 72-1(津軽こけし館) ☎ 0172-54-8181

26 目屋人形

"Meya" Dolls

諸工芸品



愛らしい綛姿の目屋乙女「目屋人形」



岩木山と白神山地に囲まれる西目屋村。かつては県内有数の木炭産地でもあったこの村では、昭和の初めごろまで馬車の入り込めない山岳の細道を、炭俵を背負って里に降りるモンペ姿の娘子の姿が見られた。目屋人形はそんなかわいらしい娘子をかたどった人形である。目屋人形は昭和の初期に若者たちが集まって村の土産物として作り始め、弘前や東京などで売られていた。需要の衰えや後継者不足から昭和 40 年代には一旦途絶えてしまったが、近年その再現に成功し、現在に至っている。

■ 主な製品 目屋人形

■ 主な製造工程 簀作り→衣装作り→胴体作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

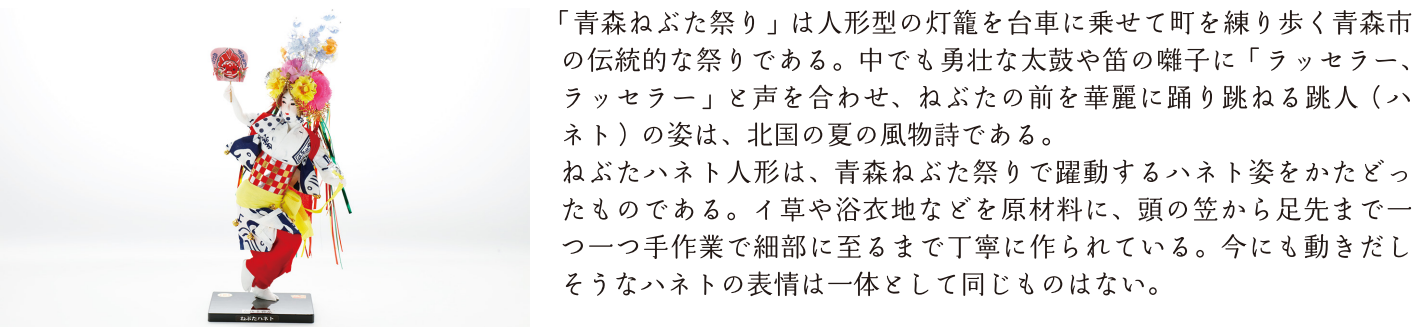
目屋人形製作部会／西目屋村田代字稲元 143 ☎ 0172-85-2828

27 ねぶたハネト人形

Nebuta Haneto Dolls

今にも動きだしそうな躍動感あふれる人形「ねぶたハネト人形」

諸工芸品



■ **主な製品** ねぶたハネト人形

■ **主な製造工程** 笠編み→胴体作り→顔作り→衣装作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

今井 陽子／青森市南佃 1-16-6 ☎ 017-742-6459

28 えんぶり烏帽子

"Enburi" Festival Hats

長い冬の終わりを告げ春を呼ぶ祭りの象徴「えんぶり烏帽子」

諸工芸品



■ **主な製品** えんぶり烏帽子

■ **主な製造工程** 下張り→成型→絵柄の素描→色付け→たてがみ付け→前髪付け→彩飾→完成

CONTACT

小坂 勝義／八戸市長根 4-14-3 ☎ 0178-43-9327

29 津軽凧

Tsugaru Kites

勇壮な武者が舞う津軽の伝統的な凧「津軽凧」

諸工芸品



■ **主な製品** 凧

■ **主な製造工程** 骨組の木取り→組立→墨書き→裏打ち→彩色→仕上げ→骨張り付け→縁紙張り付け→糸目付け→ブンブ作り→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村 ／弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511
ねぶた・凧のなりた／弘前市石渡 2-4-13 ☎ 0172-34-4960
高橋紋章染工場 ／弘前市田町 2-1-21 ☎ 0172-32-0793

30 太鼓

"Taiko" (Drums)

武者魂を奮い起こす勇壮な音を響かせる「太鼓」

諸工芸品



■ **主な製品** 桶太鼓・長胴太鼓・附締太鼓

■ **主な製造工程** 原皮塩抜→原皮の油及び肉の除去→原皮毛抜→皮の乾燥→皮の削り→皮張り→皮縁塗装→桶胴塗装→ひも染め→組立→完成

CONTACT

塩谷太鼓店／弘前市南大町 2-1-3 ☎ 0172-32-9556

31 五戸ばおり

Gonohe "Baori" (straw hat)

独特の曲線が美しく実用性の高い「五戸ばおり」

諸工芸品



■ **主な製品** ばおり・ミニチュアばおり

■ **主な製造工程** あぶつら→ふち巻き→色あぶを編む→腰の部分を編む→はねの部分→ふち巻き→ふち止め→頭の仕上げ→あご布・紐つけ→仕上げ→完成

CONTACT

稲村 幸男／五戸町字新蔵長根 24-7 ☎ 0178-62-3423

32 金魚ねぶた

"Kingyo" (Goldfish) "Neputa"

津軽の祭りに欠かすことのできない夏の風物詩「金魚ねぶた」

諸工芸品



■ **主な製品** 灯籠

■ **主な製造工程** 竹割→骨組→紙貼り→墨描き→ロウ描き→彩色→仕上げ→完成

CONTACT

津軽藩ねぶた村／ 弘前市亀甲町 61 ☎ 0172-39-1511
ねぶた・凧のなりた／弘前市石渡 2-4-13 ☎ 0172-34-4960
高橋紋章染工場／ 弘前市田町 2-1-21 ☎ 0172-32-0793

伝統工芸品の海外展開

青森県では、平成 30 年度から、本県工芸品の海外への販路開拓に積極的に取り組んでいます。

フランス・パリの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展（令和 4・5 年度）

令和 5 年度（2023 年度）は、2024 年 1 月に開催された国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に青森県ブースを出展し、通算で 4 回目の出展となりました。津軽びいどろ、木工製品、津軽打刃物、南部菱刺し、こぎん刺し、南部裂織、津軽塗の県内工芸品事業者 7 者が参加し、各職人は、職人同士のコラボレーション商品を開発するなど新たな魅力発信に挑戦しながら、来場者と積極的に商談を行いました。

トレンドを意識した、リサイクル、リユース、リメイクという意味の「Re」のテーマは来場者から好評で、青森県ブースを目指して来場するバイヤーも多く、海外での新たな販路開拓につながりました。



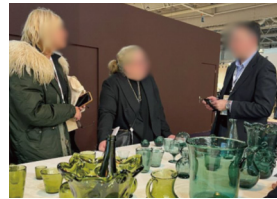
令和 4 年度（2022 年度）は、2023 年 1 月に開催された国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に青森県ブースを出展し、県内工芸品事業者 7 者が参加しました。津軽びいどろ、こぎん刺し、木工製品、津軽打刃物、南部菱刺し、南部裂織の各職人が、来場者に商品の内容・価値を直接説明しながら商談を行いました。また、ブースデザインにはブナコの照明を使用し、シンプルかつモダンな空間となりました。

「Re」をテーマとした 3 回目の出展は、継続した出展による認知度向上とコロナ禍での持続可能性への関心の高まりなどから、ブースを訪れる来場者が増え、海外での販路開拓につながりました。



2024 年 1 月開催の国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」(フランス・パリ)に展示した商品の一部をご紹介します。

北洋硝子株式会社



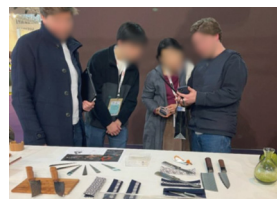
漁業用の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を活用して生み出された、青森の自然をイメージしたハンドメイドガラス「津軽びいどろ」を製作しています。職人たちは、新たな技法の習得や美しい色ガラスの調合など、常に新しい技術の習得へのたゆみない努力を続け、現在では、多様な技術・技法、独自で調合する世界的にも類をみない色数を活かしたガラス製品となっています。

有限会社木村木品製作所



りんごの生産量では市町村単位で世界一の青森県弘前市で、今年で創業 51 年となる木工所です。私達は、様々な理由から薪以外には活用出来ず、毎年廃棄処分されているりんごの木を活用し、これまで培ってきた日本伝統の木工技術を使いながら、りんごの木の木目色目の美しさや肌触りの良さを活かした木工商品を製作しています。

有限会社二唐刃物鍛造所



津軽藩より作刀を拝命して以来 350 年の伝統を持つ鍛造所です。受け継いだ技術に応用し、現在ではコレクション需要もある海外向けに、特殊な厚手鋼材を加工する製法により他社では作れない複雑な紋様を浮かび上がらせた包丁「暗紋」シリーズに注力しています。少量生産ながらも高付加価値のものづくりを行っています。

南部菱刺研究会つづれや



草木染めで染め上げた木綿糸で麻布に刺繍をする「南部菱刺し」の技術を用いて、現代の暮らしと調和した商品を製作しています。商品の製作のみならず、ワークショップも各所で開催するなど、積極的に活動し、先人の知恵を後世に受け継いでいます。布製品はもちろん、デニムや皮を使った製品も製作しており、常に新しい発想でものづくりを行っています。

三つ豆



「伝統的なものを身近に彩る」をコンセプトに、青森県津軽地方の伝統工芸「こぎん刺し」の技法を活用したアイテムを製作しています。「中まで赤〜いりんご」の摘果染めなどの草木染め糸を使用した現代生活に馴染む色使いと、古作こぎんの伝統的な図案を融合させることで、伝統技術・技法を継承しつつ、若い消費者にも手にとっていただける商品となっています。

さきおり CHICKA



青森県南部地方の、農村地方の女性たちが布を大切にするための知恵から生まれた「南部裂織」の技法を応用して、テキスタイルを製作しています。昔ながらの地機を使いつつ、古布を裂いて緯糸にし、異素材の糸や草木染めの糸を組み合わせ織り上げ、暮らしのアクセントとなるような作品を製作しています。

マスグラフィックス



青森県津軽地方を中心とした伝統工芸品「津軽塗」の技術の継承とさらなる発展を目的として、新しい津軽塗ブランド「KABA」を立ち上げ、丁寧な手仕事と職人の感性を活かした津軽塗のデザインを日常で楽しめるアクセサリやテーブルウェア製品を企画・開発、販売し、新たな市場の開拓に取り組んでいます。